

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101335		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい香貫	ユニット名	1F
所在地	静岡県沼津市下香貫楊原530-16		
自己評価作成日	平成27年3月15日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail.2014.022.kani=true&JigyosyoCd=2271101335-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成27年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さな家庭菜園での野菜作り収穫を、利用者様と一緒に楽しんでいます。近隣の商店で買物を行ったり、町内の子ども会による秋祭りの踊りなどに来所頂いたり、おすそ分けを行い地域交流を行っています。利用者様の経験を活かした、干し柿作り、ぼた餅作り、餅つきなど、季節を感じて頂くと共に、出来る力を発揮していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に立地するホームである。利用者は明るく笑顔が多く、伸び伸びと過ごしており、ホーム長や職員は自然体ではあるが意欲を持って介護に取り組んでいる。加入している自治会の年1回の総会にも出席し、働きかけを継続している。餅つきや節分・ぼた餅作り等の際は近隣の住民におすそ分けをしたり、秋祭り時の子供会の踊りへの駐車場提供等、地域との交流に日々積極的に努力している。報告や記録類は細かく、丁寧に記入され残されている。会議記録は全員が作成し、管理者のコメントも記されており、情報の共有や参画意識向上及び責任感の醸成等に大きな効果をあげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「みんな仲よく集う毎日」にのっとり、笑顔が絶える事なく安心して生活できるよう支援しています。	法人理念「敬愛・創造・貢献」とホーム理念「みんな仲良く集う毎日」、そしてホームの今月の目標を事務所内に掲示するとともに毎朝唱和しており、職員はこれらをしっかり記憶し、共有し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事参加の呼びかけや、秋祭りで、踊りの場所提供、地域主催敬老会参加等積極的に行っています。	自治会に加入し回覧板も回り、年1回の自治会総会に出席して働きかけを継続している。地域の秋祭や地域敬老会に参加し、子供会の踊りの際には駐車場を提供している。三味線や踊り・ものまね等の地域ボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの神社、ホーム周辺の散歩の際には、近所の方々より気軽に挨拶や会話がある。会話により認知症を少しずつ理解していただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、ホームでの利用者様の生活様子を報告。又、事故やヒヤリハットへの対策を報告。ご家族からの意見質問を汲み取り、次に繋げています。	地域包括支援センターや介護相談員・家族2～3人と多くの利用者が参加し、年6回開催している。ホームから状況や活動報告を行い、参加者からも意見が出ている。ホームでの生活を写したスライドショーを実施し好評を博した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度GH会議へ参加。他施設との情報交換相談を行っている。介護申請時など担当者との話をさせて頂いています。	地域包括支援センターが運営推進会議に参加している。市役所介護保険課では運営推進会議の報告を持参する際等に面談や相談をしている。介護相談員の来訪があり、市南部のグループホーム会議にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修ミーティングの場で身体拘束について話し合いの場を設け理解に努めている。構造上玄関施錠閉まっているが、外出希望があったときなど適切な対応を行っている。	研修やミーティング等の中で、スピーチロックを含め身体拘束をしない介護について職員に説明している。注意や話し合いを行い、実践に取り組んでいる。玄関は事務室に職員がおり、見守りができる時間帯は自動施錠をはずしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修ミーティングで勉強する機会を持ち常日頃から、利用者様を敬い声かけ注意を徹底しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者1部職員は研修で学ぶ機会があります。利用者様で、必要に応じ活用できるよう関係者に繋げています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、面接訪問を行い入居時には、分かりやすく契約書に添って重要事項説明等を行い、質問に答えている。退去時も、説明を行い解約の手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、利用者様との会話の中で頂いた要望クレームについては、書式に残し対策を話し合っています。	運営推進会議に家族2～3人が参加し、毎日の方を含め家族の面会も多く、随時意見を聞いている。「ご要望・クレーム報告」を制定し、利用者や家族等の意見・要望を細かく記録している。記録は職員間で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のフロアミーティング全体ミーティングを設け、職員より意見提案をすいあげ、管理者ミーティングに繋げています。	ミーティングの数日前に議題を職員全員に書面で提示し、職員が意見や提案を出しやすい環境を作っている。活発に意見や提案があり、随時書類の改定を行う等して積極的に運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績勤務状況の報告で、把握できています。働きやすい環境の場となるよう職場の要望等を聞き取り対応しています。キャリアパスを取り入れやりがいをもてるよう環境整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が充実しています。外部研修と合わせ職員個人に合った研修参加を促し、シフト調整も行っている。ミーティングの際研修委員による短時間の研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度グループホーム会議への参加。他の事業所見学など、その都度、意見交換や相談の機会を設けサービスの向上に努めています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを汲み取る為に、傾聴の姿勢で面談に努めます。可能な限り、本人の関わった方々からの情報も頂き、安心信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談やセンター方式のツール使用で、ご家族の思いを受けられる様努めると共に、介護に携わった思い、ご苦労に思いを寄せます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望されるご本人家族の意向を汲み取る様努めるが、本人家族にとって入居が最善の方法なのか見極めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事洗濯掃除等、可能なことは協力して頂くほか、身体的に不可能な方からも人生の先輩として、豊富な経験や知識を出して頂けるような話かけに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院対応面会のほか、ご家族による定期的な演奏会、季節行事へのお誘いをしご家族との絆を深めて頂くよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出外泊の支援をします。誕生日には、ご家族と合同の昼食会外出や、墓参り、友人へ手紙を書く為の物品を購入、投函の支援をしています。	友人や知人が来訪し居室で面談する利用者、友人へ手紙や年賀状を出す利用者、外食や墓参りそして馴染みの美容院等に家族同伴で出かける利用者等がいる。馴染みの場所との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、人柄生活史等を考慮し、関係が良好になるよう席の配置や見守りに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の健康状態や生活について伺ったり、季節行事へのお誘いを行っている。退去後に相談に来られた時には、ご家族の話を傾聴させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の、希望意向等傾聴し可能な限り行っている。(晩酌)良い環境で生活できるよう、困難な場合でも、話し合いを重ね希望に添えるよう支援しています。	利用者との日常の会話や行動・表情から把握するように努めるとともに、把握できた希望が実現できるよう用具等の準備をしている。気持ちを満たす取り組みや、行動を制限しないで支える態度で接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際ご本人ご家族居宅ケアマネ等より情報を頂くほか、日常の会話の中で、生活歴など把握し、職員間で情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日課はあるが、体調に考慮した過ごし方等、柔軟な支援に努めている。画一的な支援ではなく個別支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常気付いたことをミーティング等で話し合い、ケアプランの見直し時、心身状態が変化した時は、サービス担当者会議(ご本人ご家族)を随時行い、主治医往診時に相談する等他職種の意見を反映し介護計画を作成している。	職員の観察記録や意見の合意を得たところで、利用者の要望をふまえた介護計画を作成している。状態が変化した場合は往診時に合わせて訪問していただき、家族の役割も計画の中に位置付けられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日誌、申し送りノートの活用。朝夕の申し送りでの情報の共有、流れの有る介護に努めている。支援記録時は、ケアプランとの一致にも努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	快適に過ごして頂ける様、通院介助や物品購入、外出支援など一人ひとりの状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買物、近隣の神社への参拝や散歩同行を行っています。節分彼岸等の手作りの品を、ご近所へおすそ分け等行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、医療機関の確認を行っている。ホームの医療連携の説明を、ご本人ご家族へ行っている。医療連携として毎月2回の往診、急変時には、24時間の対応がある。	これまでのかかりつけ医を受診する利用者もあり、受診には家族が付き添うが受診結果は共有している。ホームでの協力医の往診は月2回受けられ、利用者の健康面の相談にも対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設巡回看護師とは、24時間連絡対応が出来ます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、医師看護師、ソーシャルワーカーなどから、情報収集し、ご家族への説明に同席させて頂くことや、面会に伺いメンタル面等の状況の把握に努めています。日頃より医療連携室等と情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについて、ホームで出来ること、出来ないことを含めて、ご家族に報告説明を行っている。意向を書面に記入して頂き、状況変化の時には、再記入して頂いています。	重度化の対応指針を定め、入居時に一定の基準で支援が困難になってくることを家族に説明して確認書も得ている。重度化した場合には主治医や看護師・家族・職員とで充分話し合い、情報を共有しながら連携して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時対応マニュアルにそって日頃より、利用者様の少しの変化にも気付けるよう、日々観察するよう申し送りを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っています。グループ内の合同防災訓練への参加や、地域防災訓練への参加も行っています。	消防署の協力も得て、消火器や避難方法及び夜間を想定した職員の連絡や通報訓練などを実施している。地域の訓練に一部の利用者も参加しているが、近隣住民と一緒に開催するまでには至っていない。	地域との協力体制の構築に向けた取り組みを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持って接し、その方の生活史などを把握尊敬したうえで、言葉使いや接し方対応など、不快感を与えないよう注意しながら心掛けています。	職員は研修や学習を通して職員の言葉や感情が利用者に重大な意味を持つことを認識している。利用者の暮らし方や生き方を尊重し、きちんと最後まで話を聴くように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境作りでは、利用者様個々の状況に合わせ、居室に伺い傾聴や、個別支援での会話で汲み取れる様ゆっくりと答えて頂けるような声かけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、体調の変化に気を配りながら日常生活と一緒に無理のない様、穏やかにゆったりと過ごして頂けるよう心掛けています。又、興味を持っていたり、支えが必要な、支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室へカットの依頼や、衣類の購入希望時には、一緒に買物に出かけるなど支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と季節料理や、会話から当日に手作り昼食を行っています。又、もやしの芽取り、食器拭き、お盆拭き等お手伝い頂いています。自力での食事配膳を声かけにて行っています。	利用者は会話を楽しみながら準備や片づけ等の役割をもって行動し、得意な分野で能力を発揮している。菜園での収穫を楽しみ、誕生日での外食やぼたもち作り、行事食など食を楽しむ機会が多くある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量(水分を含む)の記録記入や、個々に応じた食事の提供、誤嚥ムセのある方の食事形態の工夫(あら刻み)の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のレベルに合わせて、声かけ付き添いながら、口腔ケアの見守りや仕上げ磨きの支援をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意のある方には、自立支援を心がけています。排泄表を活用し、パターンの把握に努めています。	職員は排泄チェック表の記録を参考に利用者の素振りにも目配りし、さりげなく誘導してトイレで排泄できるよう支援している。夜間はポータブルトイレを利用し、本人の負担を少なくする取り組みもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳や乳製品の提供を行っています。又、家事活動、レク活動等身体を動かして頂くよう働きかけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴スケジュールは有るが、強制ではなく、ご希望に添えるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の希望を伺い、居室ソファークタツなどで過ごして頂いています。夜間は、居室の温度調整や湯たんぽを入れたり支援の工夫を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表には、それぞれ服薬が把握出来るようになっている。又、個人ファイルには処方薬内容を掲示し、副作用について知識向上に努めている。変更時には、申し送り等で伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や面会時、日常の会話の中から、情報収集し、晩酌や塗り絵等行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出希望の利用者様には、可能な限り支援できるよう努めています。誕生日には、外食や買物等できる限り希望に添えるよう努めています。	日常的な会話からその日の天気や気分・状態に合わせ、近くの散歩や買い物・神社公園で地域の人達との交流を楽しんでいる。ペランダでの野菜等の収穫、誕生日の外出やドライブ、また月に1度は揃って外出し気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人ご家族と相談しながら、希望に添った買物など社会性維持や気分転換をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶や近況を報告などご本人の希望に応じ、やり取りが出来る様支援しています。又、投函支援や、困難な部分については、お手伝いさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感のあるディスプレイ製作や行事などの写真の掲示も行い、楽しい思い出を共有できるよう心掛けています。	明るくゆったりしていて家庭的な雰囲気になっている。壁面には書初めや職員と完成させた季節に合わせた貼り絵や装飾品、行事のときの笑顔の写真を飾るなど共有空間に彩を添える工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の趣味や性格に考慮しながら、ソファ、コタツ等自由に使用できるよう配慮しています。又、会話の合う利用者様が心穏やかな空間が作れるよう席の配置等に工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を確保しながら、ご本人ご家族の意向とあわせリラックス出来る様、なじみの家具、面会時の写真を飾ったりと工夫しています。	馴染みのタンスや鏡台などが持ち込まれている。写真や習字の掛け軸・絵などの飾ってある物により、各々の利用者らしい居室となっている。備え付けの収納庫があり、危険なく生活できるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イス杖歩行、どの方も安全に移動できるような環境整備に努めています。居室内は、ご利用者の機能を発揮出来る様、ベッド位置など工夫させていただいています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101335		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい香貫	ユニット名	2F
所在地	静岡県沼津市下香貫楊原530-16		
自己評価作成日	平成27年3月15日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101335-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着のグループホームを目指し、自治会、子供会、学校などと交流を活発に行っています。利用者様、ご家族のご要望にお答えし一緒に楽しめる行事、又、一緒に外出できる行事を企画し実行しています。利用者様は、共同生活にとらわれる事なく自由に外出して頂いたり、帰宅される方外食に行かれる方、出来る限り利用者様の気持ちを大切に考え支援を行っています。各階の利用者様が自由に行き来できるように配慮し、合同で外出などを企画しています。家庭菜園では、声をかけ合い一緒に収穫を楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんな仲よく集う毎日」という運営理念に基いて、安全かつ安心できる、そして笑顔の絶えない生活環境を目指しています。朝礼で理念を唱和し共有しています。。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りや敬老会には利用者様と一緒に参加しています。又、ホーム主催の行事には、ポスティング等でお知らせし参加して頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の散歩や買物の際顔見知りの方ができ、挨拶や会話を通してホームや認知症を理解していただき、又、気軽に立ち寄っていただくよう声かけを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告やヒヤリハット事故報告など、日々の生活等の報告を行い、ご家族や利用者様からの要望質問を伺い、意見交換を行い、サービスの向上に繋がるよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の月1回の訪問や、グループホーム会議への参加など市との連携を図っています。運営推進会議のご案内をすると共に、諸手続きの為市役所へ行った時には、担当者と話しをさせて頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のポスターを掲げ、職員全員に意識付けを行っています。構造上ロックが掛かってしまうが、外出希望者に対しては、開けるよう努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の安全、健康面など配慮すると共に、ミーティング、申し送り、日常の言葉使い声かけなど、日頃より言動について徹底するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は学んでおり、そのほかの職員へ周知に努めています。利用者様やご家族から必要に応じて、相談を重ね意向に添える様努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、面談訪問を行い入居時には、重要事項説明書や、契約書に添って説明、質問に答えています。退去時にも説明を行い解約の手続きを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、要望や意見を伺ったり、面会時等来所の際には、傾聴の姿勢で話を伺います。意見箱を設置を行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングで、職員の意見や提案を汲み取る機会として活用しています。又、日常の何気ない会話での提案も含め、管理者ミーティングなどに繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績勤務表など、毎月報告しています。キャリアパスを取り入れ、遣り甲斐をもてる環境整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が、段階に応じて月1回以上行われている。又、社内研修でも職員のレベルに合わせた研修への参加を積極的に勧めミーティング内で成果をミニ研修会としてフィードバックしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度のグループホーム連絡会議に参加し、意見交換、相談の機会を持っています。又、近隣事業所への見学や運営推進会議への参加し、サービスの向上に努めています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを汲み取り、傾聴の姿勢で面談に努めます。可能な限り、ご本人の関わった方々からの情報も頂き、安心、信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談やセンター方式のツール使用で、ご家族の思いを汲み取れる様努めるとともに、介護に携わった思い、ご苦労に思いを寄せます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望されるご家族の意向を汲み取る様努めるが、ご本人ご家族にとって入居が最善の方法なのか見極めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物の片付け、食事準備など、日常生活の中で、出来る力を活かしてできることに参加していただき充実感を味わっていただけの支援に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況の変化などを随時報告すると共に、季節行事へのお誘い一緒に参加して頂く様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話などから、ご本人の行きたい場所、会いたい方など希望を聞き取るよう努め、希望にはできる限り添える様支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が、個々の役割を持ち、持てる力を発揮出来る場を設け、又、性格や生活史を考慮し、関係が良好になるよう席の配置や見守りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人ご家族より、希望があれば必要に応じた対応に努めています。又、季節行事へのお誘いをするなど気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を聞き、それに添った部屋作り環境作りを行っています。困難な際にはご家族に今までの生活歴などを伺い、できる限り意向に添った暮らしの支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、センター方式ツールを用いてご家族より情報を頂いたり、居宅ケアマネや、日頃の会話や面会時にも情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日課はあるが、個々の状況に合わせて柔軟な暮らしの支援に努めている。画一的な支援ではなく個別ケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直し時、人身状態が変化した時にはサービス担当者会議(ご本人家族を含む)を随時行い、他職種の意見を反映し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日誌、申し送りノートの活用。朝夕の申し送りで情報の共有、流れのある介護に努めている。記録時、介護計画との一致にも努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や物品購入、外出支援など、一人ひとりの状況に応じて柔軟に対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣市町村の一般ボランティアの活用。散歩、スーパーへの買物同行を行っています。又、餅つき、恵方巻等手作りレクを行ったときにはご近所へおすそ分けし交流しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、医療機関の確認を行っています。ホームの医療連携の説明を、ご本人ご家族へ行っている。医療連携として、毎月2回往診急変時24時間の対応などがある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設巡回看護師とは、24時間で連絡対応ができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどから、情報収集し、状況の把握、メンタル面などに考慮し、退院に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについて、ホームでできる事できないことを含めて、ご家族に報告説明を行っています。意向を書面に記入して頂き、状況変化の時には、再記入していただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応マニュアルを通じて対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様を含め定期的に避難訓練を行っています。町内会の避難訓練に参加させて頂いています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、常に尊敬の念を持ち、その方に合わせた言葉がけと対応を意識して関わる様努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望要望を伺った時には、できる限り対応し充実感や満足感を味わって頂ける様支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が、落ち着いて利用者様と関われるよう、配慮し一人ひとりのペースを尊重し希望に添った援助を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室に定期的に来て頂いています。好みのパーマかけを行っています。一緒に外出し、衣類の購入等の支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に可能な限りお手伝い頂き準備片付けなど一緒に行っていただき、メニューはその日の状況で決めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の飲水量、食事量の記録記入や、個々に応じた食事形態、飲水形態を工夫しています。食事中は、職員が見守り支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に食後の口腔ケア、舌ケア仕上げ磨きの徹底を行っています。ケア用品は、個々に適したものを提供するなど工夫に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンに添って誘導を行い、安心して排泄ができるよう見守り、介助の支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す料理、飲み物や、身体を動かす働きかけを行い、又、排泄チェック表により、排便の確認取れない時には、看護師、主治医の指示のもと便秘薬などを使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴スケジュールは有るが、ご本人の希望により時間タイミング体調など自由に入浴して頂ける様又、会話を楽しむ時間として大切にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は意向に添って、ソファやベッドで休まれたりしています。夜間は気持ちよく眠れるよう、湯たんぽを使用したり居室内の温度調整に気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの指示書を日常目の触れる個人ファイルに綴じ、内容と副作用の把握を行っています。臨時薬や薬変更時には、申し送りノートや、朝夕の申し送りで徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や生活習慣などを参考にしながら、利用者様一人ひとりに対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物と一緒に外出し季節の食材を選んでいただいたり、近所の神社公園に出かけています。個別に希望を伺い誕生日には行きたいところに一緒に外出したり、ご家族による外出支援に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居されている方が、現金を所持することとはご遠慮いただいておりますが、近所の商店では、職員が付き添い、立替払いで買物を楽しんでいただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方も居ます。又、電話の取次ぎや手紙の投函の支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為、毎月施設内のディスプレイを工夫し、写真の掲示も楽しんで頂けるよう貼り方を工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や、趣味など考慮しながら、気の合う利用者様と会話ができるよう、席の配置など工夫し配置に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は長年馴染まれたものなど、可能な限り、持ってきて頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、利用者様の障害とならないように、できる限りを置かないよう配慮しています。居室内は、利用者様の機能を発揮出来る様ベッドの位置など配置に努めています。		